

# 自分で考え行動する心

今年の  
シリーズ②

坂井地区  
家庭教育支援チーム

No.  
030

「自主性」を育て、"〇〇したい"を育てよう

## 信じて待つことは 「勇気の芽」を育てる肥料

子どもを信じ、成長を待つことは、子どもの可能性を育てる「勇気の芽」を育む肥料のようなものです。

大人は経験があります。“もっとよい方法”を知っています。つい、我が子が困らないように先回りし答えを教えたり、代わりにやってあげたくなったりします。ところが、これが子どもが自分で生きていく「学びの機会」を奪い取ります。

なかには、親は信じて待っているのに思うようになってくれないというお母さんもいます。これは信じて待っているフリをしているだけで、心の中の心配をがまんして口に出していないだけです。親と子の心の根っこ(潜在意識、無意識)はつながっているので言わなくても親が心の奥で考えていることが子どもに伝わります。

親はリラックスして  
信頼した時、子どもは、  
無限の力を引き出します  
今は出来ないけど、きっと出  
来るようになる。根拠はありま  
せん。これが信頼です。

この先、小学校に入つて「子どもは自分でできるはず」「自主的に行動できるはず」「ほかの子はできるのに、何で家の

3～6歳の間に「私これがしたいの。〇〇だと思うから」と自分の考え方や気持ちを説明してくれようになつていれば、この自主性が育つています。

子どもの心の発達に合わせたサポートがされていない親が子どもの気持ちを抱きます。つまり、子どもは失敗を恐れるようになります。

6～12歳頃は自己有用感を獲得できる年代です。「自分には能力がある」と感じられる気持ちです。『私は〇〇ができる!』と思える心です。優越感

自ら積極的に働きかける積極性

情を感じたり過度な嫌を受けると子どもは罪悪感を抱きます。つまり、子どもは失敗を恐れるようになります。



自分でできた!の経験をたくさんさせて自主性や人の役に立つという非認知能力(自制心、創造力、社会性など)を育てましょう。

昨年度 最優秀賞 サプライズ 東十郷小四年 牧田奈緒

私は弟はピアノを習っています。お母さんの誕生日にサプライズでピアノのプレゼントをするために、ピアノの先生に「ハッピーバースデー」を教えてもらいました。

お父さんと弟とお母さんに見つからないように、こっそり練習をしました。お母さんの誕生日にピアノをひいたらお母さんはうれしかったみたいで泣いていました。来年もお母さんにサプライズをしたいです。

## わが家の「こゝこ」日記

ではあります  
せん。この時期、  
同世代の子  
と比べ評価  
されるので得意、不得意  
がわかつてきます。不得  
意でも自発的に問題に取  
り組み、努力や工夫をし  
て自分の目的を達成する  
と能力に自信を持ち、次  
の課題に挑戦していく喜  
びをみつけます。

家族は、子どもが「失  
敗してもいいんだ」と思  
わせる家族のサポートや  
励まして、再挑戦し、上  
手く課題を  
乗り越えさせ  
ましょう。

【参考書籍】  
「子どもの一生を決  
める心」の育て方  
山下エミリ著

## 支援員から

A

Q.. 小6の子が自信をなくしているようでも心配しています。どう対応するとよいですか?

Q.. 小6の子が自信をなくしているようでも心配しています。どう対応するとよいですか?